

6月 月例会報告

【日 時】令和 8年6月27日 (土曜日) 13時から17時

台風7号・8号接近の為オンラインによるリモート会議に変更 ◆参加者：18名
二部の「勉強会」【読書会】は7月例会に順延させて頂きました。

第一部 【研究発表と懇談会】

1. 研究発表： 『東日流外六郡誌』から見える日本の古代 鈴木 浩氏
詳細な説明付きの20コマを映写されて丁寧な説明と解説がありました。

(1) 【経緯】

昨年発売された古賀達也氏編『東日流外三郡誌の逆襲』（八幡書店）中で、青森県の玉川宏氏が書かれた「東日流語部録が明かす三鳥居の謎」中に大変興味深い記事があったからだそうです。

(2) 【全体内容】

古代日本の真相を「東日流六郡誌」を主に「魏志倭人伝」「宋書夷蛮伝・倭国伝」「古事記」「日本書紀」「万葉集」と「百済王統と古代日本」の記述から、読解されました。なお、関連する九州地方の遺跡などに詳細に言及する説明がありました。

(3) 【まとめ】

20コマ目の「終わりに」で研究成果を次のようにまとめられました。

- ①「東日流六郡誌・東北地方」「魏志倭人伝・中国」「宋書夷蛮伝・倭国伝・中国」「古事記、日本書紀・8世紀の大和朝廷・近畿」と「百済王統と古代日本・百済」の四方向から古代日本史を追求した。
- ②記紀では記述があやふやな熊襲国=狗奴国の熊曾建を、「東日流六郡誌」はどの勢力に滅ぼされたか 記述しており、倭五王王朝の発足を示唆する唯一の書籍の可能性はある。
- ③④いわゆる「欠史八代」の天皇と根子彦系天皇の関係を（阿蘇山の根子岳などと関連付けて）解明。
- ⑤熊襲とエミシ同族説を「東日流六郡誌」の記事によって再確認。
- ⑥古代日本各地の地名とシベリア地方地名との類似性を提示。
- ⑦日本古代史上の大転換期だった倭五王王朝登場とそれ以前の日本列島の状況を把握できた。

(4) 【質疑・感想等】

- ①古賀達也氏から神籠石の年代・クマと神の関係・根子のことなどについて反対意見があり鈴木氏が説明されたが、かみ合いませんでした。
- ②全体として詳細にこだわり過ぎたようで、発表時間が大幅に伸びたのが残念でした。

(説明140分、質疑15分)

2. 【懇談会】フリートーク

橘高 修氏からの提案で「倭弥呼の邪馬台(台)国」九州説を描いているYouTube画像を見る提案があり25分位の動画を視聴した。

「最新3D地図が暴く！1800年前の邪馬台国と神武天皇の謎」
<https://youtu.be/NrW4MAmdjg4?si=HhkdnmUVrj9ulHnX>

視聴後、何点か、出土物の対比等疑問点が出されたが「倭弥呼の邪馬台(台)国」は九州か奈良かの二か所の対比で纏められ「九州説を説いている」

つがる

「東日流六郡誌」から見えてくる古代日本

P1

東京古田会 鈴木 浩 2026, 6, 27 オンライン発表

- ・ 昨年発売された古賀達也氏編、八幡書店「東日流外三郡誌の逆襲」の中で、青森県の玉川宏氏が書かれた「東日流語部録が明かす三鳥居の謎」の中に、大変興味深い記事がありました。
- ・ 今回、古代日本の真相を「東日流六郡誌」を主に「魏志倭人伝」「宋書夷蛮伝・倭国伝」「古事記」「日本書紀」「万葉集」と「百済王統と古代日本」の記述から読み解いてみたいと思います。
- ・ 私なりに勉強してみました。長くなりますが各書より引用します。

「東日流外三郡誌の逆襲」 p349 「東日流六郡誌大要」中の「日高見国之事」の項に

〔「倭国、即ち、邪馬台国にをける荒覇吐王系の人皇は、根子彦孝元天皇の君臨依頼、二代にして絶したり。

この因なるは、稚根子彦開化天皇にありて、倭国による奥州、坂東の一統を謀りたるが故なり。

稚根子彦、祖に反きて兵を挙げ、三輪山に祀りし荒覇吐神を廃して、**出雲・南海・筑紫**の神を国神として鎮めたれば、坂東・奥州の五王ら怒りて、常にして、倭軍と争ぞ兆たり。・・・

・・・然るに、稚根子彦開化天皇は、その後、渡海し来たりし強敵に国を奪われ、脆くも滅びたり。

このとき、日高見国の荒覇吐族にては、一人だに救援に赴かざるなり。」というのです。

これは現代の日本史では「欠史八代」とされている後の記録です。

この二代の天皇（孝元天皇と開化天皇）が日之本国の西分倉王だったことは、現代に至るまで真隠しにされています。」と、玉川宏氏は述べております。

前後の文👉を合わせて、私の理解できた範囲内で要約しますと、

・エミシ族は荒覇吐族とも言い、ブルハン神はバイカル湖の神で荒覇吐神といった。初代**安日彦王**（副王・長髓彦）でその支配する国は、日之本国とも日高見国ともいった。その領域の中心地は東北地方であり、支配領域は九州まで広がっていた。この国は**四族（アソベ族、ツボケ族、晋族、耶馬台族）**から成っている。

アソベ族は岩木山麓に住む人々・先住民。**ツボケ族**のツボは神聖な、ケは所、神聖なところに住む人、壺の石文は聖地に立つ石碑。芥屋（ケヤ）の大門・筑前糸島半島、気比大社・敦賀市。**エミシ族**はエ人、エ族で勇者と解釈されている、おおよそ4000年前頃シベリアから来た民族でしょう。1600年前頃サハリン北海道に来た肅慎は**ミシハセ**と言う、エミシとミシハセのミシが共通しており民族という意味になる。神武歌謡「夷を一人百な人人は云へども抵抗もせず」。シベリアのエヴェン族もエ族の意味、エヴェン族は匈奴の単于だった可能性があります。**晋族**は中国晋国から逃れてきた人。

耶馬台族は弥生人・水田稲作民・倭人・海人族・伽耶諸国から来た。大伽耶国は三世紀以前は**未烏邪馬国**と言われていた、井上秀雄著書。

・関西地方から九州までを束ねる**西分倉王（にしわけくらおう）**を置いた。この地方には**180人の王**がいた。倉は国と同じ意味で**西分国王**となる。

宋書夷蛮伝・倭国伝の昇明二年（478）倭王武の上表文に「・・・昔から祖禰がみずから甲冑をきて、山川を跋涉し、ほっとするひまさえなかった、**東に毛人を征すること五十五国、西に衆夷服すること六十六国、渡って海北を平らげること九十五国。**」とある。毛人55国とは中国四国を指す、日本書紀には日本武尊の東征の項に、出雲猛、吉備下道臣前津屋、吉備上道臣田狭などが出ており、**この東征の地は中国四国と、大阪淀川河口の荒ぶる神の支配地を指している。西の衆夷66国とは九州です。**

$180 - 55 - 66 = 59$ となる、この59人の王は中部山岳地帯から西の中部地方と、関西地方の王と思われる。その広さと王の人数は妥当と思われる、古代西日本の国数が東日流六郡誌の記述**180人の王とほぼ同じになる。**

・ある時代から西分倉王支配下の国々は、本国である日之本国からの分離独立運動が起きた様子で、これらの国は**倭国・邪馬台国**と名乗ったようです。

• [国生み]

「次に筑紫島を生み給う。此の島身一つにして面四つあり。面ごとに名有り。

故筑紫国を白日別(しらひわけ)と謂ひ、豊国を豊日別と謂ひ、肥国を建日向日豊久士比泥別(たけひ むかひ とよくじ ひねわけ)、熊曾国を建日別と謂ふ。」

・別とは、古代の領土の分割を意味し。別れた国の意味になります、「東日流六郡誌大要」が言う「西分倉・王=西分国・王」の分と同じ意味でしょう。

・「東日流六郡誌大要」では根子彦孝元天皇と稚根子彦開化天皇の時期、熊蘇国・建日別が「西分倉王・西日本の王」であったと言っているようです。

・「魏志倭人伝」倭人は帯方の東南大海の中にあり、山島に依りて国邑をなす。旧百余国。漢の時朝見する者あり、今、使訳通ずる所三十国。

晋の陳寿(233~297) 卑弥呼 死亡年247年前後

この三十国が邪馬一(台)国の旁国三十国で九州島内にあった国かもしれない。

- 「倭国、即ち、邪馬台国にをける荒覇吐王系の人皇は、根子彦孝元天皇の君臨依頼、**二代にして絶したり**。この因なるは、稚根子彦開花天皇にありて、倭国による奥州、坂東の一統を謀りたるが故なり」とあり、根子彦孝元天皇も稚根子彦開化天皇も荒覇吐王系の人皇だと書かれています。ここでいう「倭国」「邪馬台国」とは九州にあったと考えられます。

魏志倭人伝に「女王国より以北、その戸数・道里は得て略載すべきも、その余の旁国は遠絶にして得て詳かにすべからず。」とあり、**この北とは北東も指すと解釈でき、中国地方を指している**。この地の国々の名は記されて居ない。邪馬一（台）国の旁国三十国は国名が記されている。**旁国に中国地方は含まれず、九州島内であった事になります**。また「女王国の東、海を渡る千余里、また国あり、皆倭種なり、また侏儒国あり、その南にあり。」とあり、これは四国です。侏儒国の名が出ているが旁国三十国には含まれていない、**中国四国地方は旁国三十国に含まれない**。

- 次には「**然るに、稚根子彦開花天皇は、その後、渡海し来たりし強敵に国を奪われ、脆くも滅びたり**」とあり、日本古代史上、**倭国**の中心部は九州です。邪馬一（台）国も九州ですから、この時代の倭国の中心は九州にありました、東日流六郡誌のこの記事は歴史事実と一致しております。
- 根子彦孝元天皇と稚根子彦開化天皇は親子であり、九州にあった何れかの国の王であった事になります。

- ・ 稚根子彦開化天皇は渡海してきた強敵に滅ぼされた。
- ・ 渡海してきた強敵とは何者なのか。対馬、壱岐からの来航は**天神降臨、天孫降臨**や**天下り**と表現している。ましてや本州や四国から九州に渡ることを渡海するとは言わない。
- ・ 中国や朝鮮半島から朝鮮海峡を渡って来た強敵を言っているようです。その強敵によって国を奪われ、脆くも滅びたと記録されています。

三国志 魏志倭人伝（陳寿 233～297、卑弥呼の死亡は247年頃）には邪馬一（台）国の、
 「その南に狗奴国あり、男子を王となす。その官に狗古智卑狗あり。女王に属せず」とあります。
 女王国の、その南に狗奴国ありですから、この狗奴国とは肥後の熊襲国以外ないようです。

古事記には景行天皇が熊曾建を滅ぼしたと載っており、また、景行天皇の御子である倭建命を遣わし、熊曾建を殺したとある。おり、また、景行天皇の御子である倭建命を遣わし、熊曾建を殺したとある。

日本書紀には景行天皇十二年条に「十二年の秋七月に、熊襲反きて朝貢らず。八月の十五日に、筑紫に幸す」「十二月一日に、熊襲を討たむことを議る。」「十三年の夏五月に、襲国を平けつ」とあり、
 「朕聞く、襲国に厚鹿文(あつかや)・迺鹿文(さつかや)といふ者有。是の両人は熊襲の渠師者(いさお・勇敢な者)なり。・・・」

また二十七年条春二月「東の夷の中に、日高見国あり。・・・是を総べて蝦夷と曰ふ・・・」
 「冬十月十三日、大和武尊を遣して、熊襲を撃たしむ。」とあります。景行天皇が筑紫に行幸したのは景行天皇十二年八月十五日で、翌年十三年五月に熊襲国を滅ぼしたことになります。

倭建命・大和武尊は実在の人物ではなく、景行天皇業績の重複記事になります。大和武尊のモデルになった人物は、倭五王王朝初代倭王旨(341年・の九州に遠征)、五代倭王興(463年・中国四国・大坂淀川河口に遠征)と六代倭王武(500年前後、関西から関東に遠征)です。8世紀初頭に記紀を編纂した際、常陸国風土記中の倭武天皇を倭(ヤマト)武(タケル)と読んだのが始まりか。三人の倭王の約160年間にわたる活躍を倭武(ヤマトタケル)一人にしている。

III 日本古代史上の事象 1 ・エビデンス ・方保田東原遺跡 P 9

・ 熊本県山鹿市方保田に、弥生後期の環濠集落遺跡「方保田（かとうだ）東原（ひがしばる）遺跡」があります。

菊池川の中流域で広さが約35ヘクタールもあり、発掘は5%しか進んでいないそうです。周囲には同じような弥生後期の環濠集落遺跡があと2カ所あり、同一勢力と見られます。上流の台（ウテナ）環濠集落跡がある。（川上梟師・**辻鹿文**（さつかや）か、**貸泉**が出土している）。吉野ヶ里遺跡は36ヘクタールでほぼ同規模です。

・ 出土物は**大量の鉄鏃と鉄剣、鉄製刀子、青銅器、石包丁型鉄器（日本で一個のみ）、鉄斧、鉄釣り針、鉄状板製品（朝鮮半島から運ばれた物）、巴形銅器、青銅鏡、丹塗壺、土器、ジョッキ型土器**が出土しております。銅鏡の出土数は吉野ヶ里遺跡と同じ位。家形土器も出土しており全国で9例のみ。**土器は出雲系、関西系が出土**。出雲、関西地方との活発な交流があった様子で、出土物からも東日流六郡誌の「荒覇吐神を廃して、**出雲・南海・筑紫の神**を国神として鎮めば・・・」の記述で、熊襲国と出雲、南海地方は深い関係性が伺えて、東日流六郡誌に記述と合致する。

弥生後期の鉄器出土数では、国内で熊本県が一番多く、次が福岡県です。この事実からも狗奴国（熊襲国）が卑弥呼の邪馬一（台）国を凌駕していた一端が伺えます。鉄状板製品が多数出土しており、鉄は朝鮮半島から運んでいる。発掘担当員談

- ・ ところが、**これらの遺跡は四世紀中頃突如として滅んでしまったそうです。**これが東日流六郡誌に載っている「稚根子彦開化天皇は、その後、渡海し来たりし強敵に国を奪われ、脆くも滅びたり。」に当たる事象ではないでしょうか。
- ・ 倭王旨が肥後国の球磨川河口に上陸したのが**341年**、熊曾建を滅ぼしたのが翌年の**342年**です。熊曾建の本拠地、方保田東原遺跡が滅んだのが**4世紀中頃**と時代は一致しており、一連の出来事だったことが分かります。

卑弥呼が邪馬一國を収めていた時代に栄えていた
古墳時代前期 1900年~1700年前の弥生環濠大集落

方保田 (かとうだ) 東原 (ひがしばる) 遺跡 熊蘇国・狗奴国

熊本県山鹿市方保田 約35ヘクタール

魏志倭人伝

「女王国の南に狗奴国在り」 女王国は筑前又は筑後

P10

四世紀中頃 菊池川上流の台 (ウテナ) 遺跡と共に滅んでしまう、**貨泉出土**

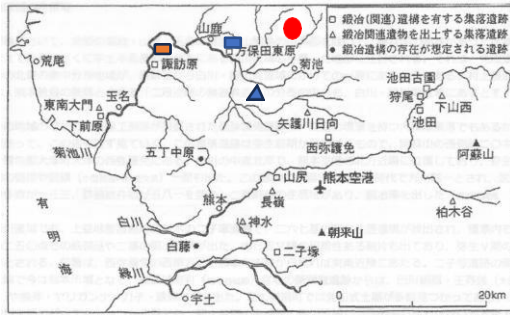
「貨泉」中国、新の王莽が紀元14年に鑄造し円形方孔の銅銭

341年 熊襲反不朝貢、幸築紫[紀略] 西暦は「倭国年表」平松幸一
342年 悉平襲国 倭王旨 (記紀では景行天皇、日本武尊) に滅ぼされている。

方保田東原遺跡~鞠智城の距離は約7km

方保田東原遺跡
ウテナ環濠集落跡、貨泉

鞠智城
江田船山古墳



方保田東原遺跡

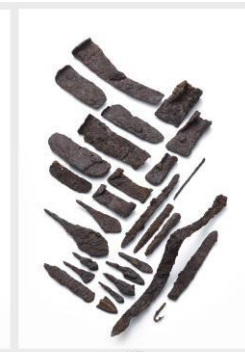
弥生中期~古墳時代初め

- 35ヘクタール 発掘済5%
- 吉野ヶ里遺跡は36ヘクタール
- 鉄原料は半島から、鉄器は多量
- 銅鏡は吉野ヶ里遺跡と同じ位数

青銅器

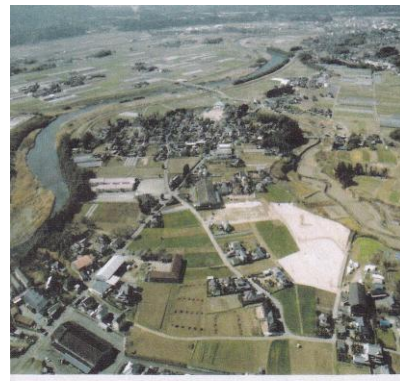
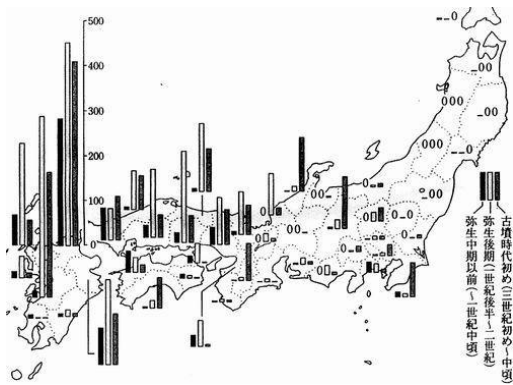
鉄器

土器



弥生時代の鉄器出土数

方保田東原遺跡



土器は**出雲系、関西系あり**、家形土器は全国で九例のみ 埴輪以前出土物

大量の鉄鏃と鉄剣、鉄の刀子、石包丁型鉄器、鉄斧、鉄釣り針、鉄状板製品、巴形銅器、青銅鏡、丹塗壺、ジョッキ型土器、家形土器

熊本県は弥生後期の鉄器出土数は全国で一番多い、次が福岡県。

この勢力は九州中部で孤立していたのではない。

東の上空から見た方保田東原遺跡 (左に流れるのは菊池川)

・以上の記紀の記事は、実際の古代史史上ではどこにあったのか、熊蘇国を滅ぼしたのは何時で、どの勢力だったのか、大変難しい大事変です。記紀の記事からだけではこの解明は難しい、ではその糸口はどこに見出せるのか、それが一番の難問でした。

・その鍵は兼川晋著、不知火書房「百済の王統と日本の古代」に見つかりました。同書には百済（当時はまだ十済国と言っていた）の12代契王・十済国（344～345）が王位を嫡流の義弟・近肖古王・百済国・ペクチュ（346～375）に譲り、兄王・契王は自らの軍を率いて九州に遠征し、倭五王王朝を開いたと言っているのです。

・熊本県南部の、八代市球磨川河口右岸に、航海安全の石碑が立っている。文面には河童が九千人上陸したと書かれており、石碑の近くには高さ3m位の河童の座像が祀られています。又、八代市には民間伝承として韓人三千人が上陸したという話が伝わっているそうです。（小田富士夫編著、九州考古学散歩）

・ 球磨川河口には大鼠蔵島、小鼠蔵島という小島がある。現在は干拓によって陸続きとなっているが、この小島には大鼠蔵古墳群があり、日本で最初期の**横穴式古墳**と言われている。また、日本で最初期の**装飾古墳**でもあります。

(五盛墓 4 号墳装飾古墳)

・ 日本の古墳は古来より竪穴式古墳であって、横穴式古墳は中国や朝鮮半島の様式です。装飾古墳も中国や高句麗に多くあります。

私も吉林省集安市の高句麗時代四世紀末の、**五盛墓 4 号墳内部**の装飾を見学したことがあります、オールカラーで見事なものでした。

・ 大鼠蔵古墳群の装飾古墳も四世紀末と言われている、集安市の古墳とほぼ同時代です。**線刻で色は付いていなく、初歩的な**

図柄です。中国や高句麗の図柄とは系統が違いますが、この装飾古墳自体はやはり大陸や朝鮮半島から、渡海して来た勢力の造ったとも判断されます。

・ 八代市の石碑、伝承、横穴式古墳の出現、装飾古墳の出現など伝承と遺跡、出土物から見て契王の軍が上陸したことを裏付けているようです。



太陽を支える男神・三足カラス



月を支える女神・ヒキガエル



1, 熊本県八代市の民間伝承

河童九千匹が渡来した。

地点



仁徳天皇（四世紀）の時代にやって来た、河童の頭領は九千坊と呼ばれ西国一の河童であったが、利根川の河童にはかなわなかった、河童はその後筑後川に移動した。祭りはオレオレデーライタ祭と言い毎年行われている。（日本伝承大鑑より）

二つの石は古くから有ったが昭和29年石碑にした。

2, 倭国最初の装飾古墳は八代市球磨川河口の大鼠蔵古墳である。▲ 地点 自然の森ミュージアム



渡来

人伝承と日本最初の横穴式古墳、装飾古墳が同一地域に存在する

河童渡来碑・河童像

八代市の球磨川河口前川橋北詰

P13

河童とは鉄器製造に長けた渡来人を指し、河原で砂鉄や砂金を採取している様子を河童といった。



大鼠蔵古墳群 東麓1号墳の石障 四世紀後半

倭国最初期の横穴式古墳、装飾古墳

線刻、色なし

石障 横幅120cm 高さ60cm

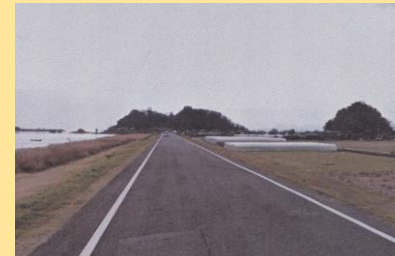
八代市立自然の森ミュージアム

左から弓、靱、同心円文（銅鏡）、短甲、剣と同心円文

同心円文は銅鏡を表し、その霊力によって悪霊がこの墓に入らないように祈った。

装飾古墳は全国に約千ヶ所ある、熊本県には半分の約五百ヶ所ある。

大鼠蔵島・小鼠蔵島



八代市街マップ
yatsushiro

お問合せ先

■ 観光課	0965-32-2015	■ 子育てサポートセンター	0965-43-0011	DMO やつしろ	0965-31-8200
■ 八代観光バス	0965-32-2111	■ 市民センター	0965-34-1111	八代市観光物産案内所	0965-35-6627
■ 観光課	0965-32-0711	■ 市民センター	0965-30-9909	八代観光案内所	0965-32-2436
■ 観光課	0965-37-5665	■ 市民センター	0965-32-2223	八代観光案内所	0965-38-0267
■ 観光課	0965-39-1001	■ 市民センター	0965-34-0500	八代観光案内所	0965-36-5800
■ 観光課	0965-31-1045	■ 市民センター	0965-37-2666	八代市観光物産案内所	0965-33-4115
■ 観光課	0965-32-4145	■ 市民センター	0965-37-0443		
■ 観光課	0965-33-1782	■ 市民センター	0965-37-2648		
■ 観光課	0965-31-6505				

倭国最初の朝鮮式山城 + 都城

鞠智城 (きくち城)

熊本県山鹿市菊鹿町米原・菊池市



鞠智城



方保田東原遺跡



・特長

最初の都城のため守りに重点を置いた
山城 + 都城

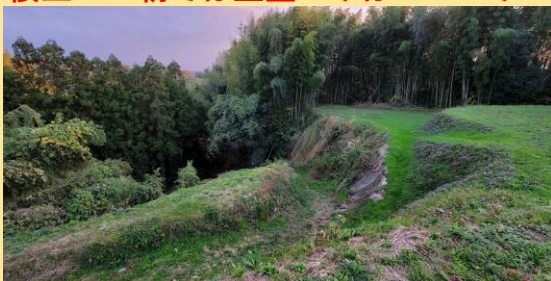
例、百済最後の扶余城羅城と扶余山城

・弱点

朝鮮半島に出兵するには、海から遠い、約40km。

西側土塁、鞠智城は土塁のみ
高句麗の朝鮮式山城は
土塁か石垣かのどちらか

倭五王王朝では土塁のみはここのみ



松尾神社・秦氏

台 (ウテナ) 遺跡

鞠智城の特長

P14

1、2棟の**八角形建物**がある、天壇地壇かもしれない。国内の山城には例はなく、

高句麗の丸都山城 (九角形、十二角形)、百済の二聖山城にあるのみ。

2、**広大な貯水池跡**があり、雨量の少ない高句麗の山城と共通している。

3、**百済製の金銅造菩薩立像**が出土している高さ12, 7cm
同サイズの仏像が韓国光州博物館に展示されている。

4、「**秦人米斗**」銘木簡が出土している。辰人とは扶余、高句麗、百済人。江上浪夫説

「百済の南ルートが考えられる」 東京大学名誉教授 佐藤信 談

鞠智城は百済系 (倭五王王朝) の勢力が築いたと考えられる。

・日本考古学協会会長 海の道むなかた館 西谷正館長講座より

「古代山城には大型建物跡は少ないのが通常であるが、大野城と鞠智城は特出して多く、司令場的役割、役所的建物跡

がある。22ヶ所ある古代山城の中、この2城は特別である」
鞠智城 大小建物跡 **72棟** 大野城 大型建物跡 **70棟**

・**鞠智城は倭五王王朝の最初の山城 + 都城でしょう。**

大野城は倭国王朝の都城、大宰府防衛のための山城です。

巨大な貯水池跡
雨量の少ない
高句麗の山城
には絶対必要な設備



百済製金銅菩薩像韓
国国立光州博物館に
同サイズあり



・熊本縣山鹿市の菊池川中流域にある「方保田東原遺跡」から、さらに上流約7Kmの高台に**鞠智（きくち）城**があります。

・ここは日本最初の**朝鮮式山城**であり、その内部には宮殿の一部と思われる**八角形建物跡**が二棟ある。この配置は宮殿の正門の両側に立っていたと考えられます。これは**天壇、地壇**と思われ、天壇は円形のはずですが、木造での円形建物は難しく、八角形になったと思われす。

中国「再現した八角形建物」

高句麗の丸都山城には九角形、十二角形の建物跡もある。

・八角形建物は中国東北地方やシベリアに多くあり、パオやゲルを模した木造建築物のようです。中国瀋陽市瀋陽古城 清国初代皇帝ヌルハチ廟にあり。**ヌルハチの父が造った山城内には巨大な八角形建物が再現されていた。**



・日本の後の宮殿想定図（前期難波宮）に、そっくりな配置図が出てきます。

- ・ **鞠智山城**には大小の建物跡が72棟ある。通常朝鮮式山城には建物跡は少なく、後の倭国王朝の都城である太宰府に隣接する**大野城**に、大型建物跡が70棟あるのみです。やはり鞠智城は都城だったのでしょうか。鬼ノ城には大型建物跡が5棟ある。

・ 四世紀中頃にこの地に都城を構えた勢力、**それに該当する王朝は倭五王王朝しかありません**。契王が軍勢を率いて球磨川河口に上陸したのが341年で、翌年熊襲の狗奴国を滅ぼし、鞠智山城の内部に宮殿を築いたのでしょう。最初の都城なので守りを重視した。例、百済国最後の都城、扶余山城と扶余城が一体。

- ・ 契王は倭国では倭王旨を名乗っている、七支刀にその名が刻まれています。**七支刀**は369年百済近肖古王から、遷都祝いに倭王旨に贈ったものでしょう。倭王旨は369年に鞠智城から筑後の**水沼皇都に遷都している**。

- ・ 百済近肖古王は、346年十済国から**百済国（ペクチュ国）**を建国している。

- ・ **クダラ**は和語で、河が蛇行して流れている所を言っている。クダはホース状の曲がりくねっている事を言い、ラは場所を表す。ソウルの漢江周辺を事で、倭人が**クダラ**と呼んでいたか。バイカル湖東岸とモンゴル、ロシア国境に**クダラ**地名がある。

- 倭王旨は369年鞠智城から筑後山門郡（現みやま市）高田町海津の**水沼皇都**に遷都している。近くの、こうや宮に倭王旨一族と七支刀を携えた武人像が祀られている。「**七支刀**」は泰（和）四年（369年）百濟近肖古王から倭王旨に遷都祝いとして贈られている。

万葉集

4 2 6 0 歌「**大君は 神にしませば 赤駒の 腹這ふ田居を 都と成しつ**」

4 2 6 1 歌「**大君は 神にしませば 水鳥の すだく水沼を 都と成しつ**」

この和歌は倭王旨が肥後の鞠智城から遷都した、筑後の水沼皇都を歌ったものでしょう。

- みやま市高田町には、現在も歌そのままの水沼、田居の風景が残っています。この都城を護る山城は日本最初の神籠石タイプの**女山神籠石**です。倭五王王朝二代目倭王讚の時代、400年前後に久留米市の筑後川と高良山に守られる処に遷都している。この地の都城に対する山城は**高良神籠石**になります。高句麗には神籠石タイプの朝鮮式山城はなく、土塁か石垣かどちらかです。

江上浪夫「**騎馬民族征服王朝説**」でも、この王朝を倭五王王朝と言って居る。但し、倭五王王朝は531年の滅亡まで都城は筑後御井郡久留米にあり、奈良には遷都していない。この王朝は東征はしたが、東遷はしていないので、倭五王王朝、東遷説は歴史事実ではない。

記紀では初代倭王旨（**契王**）に**景**行天皇を、二代倭王讚には応神天皇をあて、六代倭王**武**には雄略~**武烈**をあてている。

女山 (ぞやま) 神籠石 倭国最初の神籠石

福岡県みやま市瀬高町大草 (筑後国山門郡)

369年 百濟王、近肖古王が七支刀を造り倭王に送る[百]

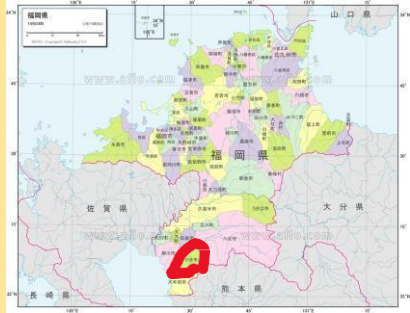
倭王=倭王旨 遷都祝い。 邪馬田井水沼玉垂宮とも言う

万葉集4260/4261大王二首

4260「大君は 神にしばせば 赤駒の はらばう田井を 都となしつ」

4261「大君は 神にしばせば 水鳥の すだく水沼を 都となしつ」

福岡県地図



女山神籠石の位置



神籠石とは 朝鮮式山城内の城壁を、鞠智城では土塁のみで築いていたが雨量の多い倭国には合わず、二箇所目の女山神籠石からは一段の石塁の上に版築構造の土塁を築いた構造に進化した。次の倭国王朝は神籠石タイプの朝鮮式山城は築いていない。大野城、基山城。

女山神籠石

一段の石塁

女山神籠石から
西側山門方向を見る



水沼皇都の候補地

筑後国山門郡

P18

みやま市高田町海津字海門 (みかど)

軽嶋明宮か、応神天皇 帝 (みかど) 神社あり

倭五王王朝初代 倭王旨 (景行) が肥後鞠智城から369年筑後山門に遷都し、二代目倭王讚 (応神) が400年前後に高良神籠石の麓に遷都した。高句麗との戦いの結果も影響した。東約5kmに女山神籠石

左・西にこうやの宮 北と西は大根川 南は人口の堀



帝神社



帝神社海門

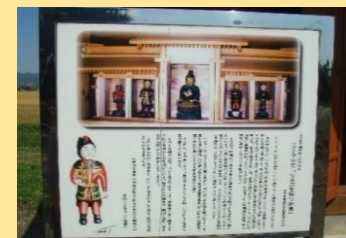
下・南に釣殿宮

この都城は有明海に約8kmであるが、満潮時に船で複雑な水路を通り矢部川から直接海に出られ、朝鮮半島への出兵容易、平地で守りに弱い。

・ 釣殿宮祭神 景行天皇
釣魚台か、立派な彫り物
「現地では釣ってんさん」

・ こうやの宮
磯上物部神、物部氏系
七支刀を携えた武人と天皇を祭る
奈良の石上神宮と同系

・ 帝神社
鬼瓦に木筒と鶴



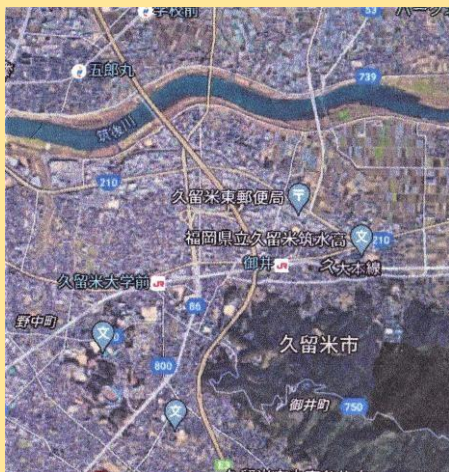
高良神籠石

福岡県久留米市御井町

高良神籠石は倭五王王朝二代目倭王讚の中頃（400年前後）から、倭国王朝四代目多利思北狐が618年太宰府に遷都する迄、倭国の都城を守っていた。都城と山城が近く守りに強い配置であった。

都城は久留米市、御井郡朝妻付近、この周辺には曲水の宴（倭王武）の跡があり、後の時代筑後国府もこの付近にあった。

神籠石の名は、この山城の周りを一段の石塁が巡り、高良大社を護っているように見えたので命名した。朝鮮式山城とは思わなかったため。



高良神籠石 石塁は一段



掘と石塁



P19

高良大社



高良大社の三神

右、住吉大神 弥生時代からの神
中央、玉垂大神 倭国王朝の神
左、八幡大神 倭五王王朝の神

朝鮮式山城・神籠石の分類（学会は構造上の分類）

- 学会
- 1, 朝鮮式山城タイプ、鞠智城、金田城、屋島城、大野城、他
 - 2, 神籠石タイプ、女山神籠石、高良神籠石、鬼ノ城、他多数
 - 3, 怡土城タイプ（756年、中国・唐式 近畿大和朝廷築造）

鈴木説（築造の目的別分類）

- 1, 都城と朝鮮式山城が一体化している、鞠智城、扶余城
- 2, 都城が攻撃されたときの逃城、女山神籠石、高良神籠石、大野城
- 3, 都城から離れており都城に向かう敵の監視また進撃防止、その他
18城

1, 「東日流六郡誌・東北地方」「魏志倭人伝・中国」「宋書夷蛮伝・倭国伝・中国」「古事記、日本書紀・8世紀の大和朝廷・近畿」と「百濟王統と古代日本・百濟」と四つの方向から古代日本史追求してみました。

2, 「東日流六郡誌」では、記紀があやふやに記述している、熊襲国=狗奴国の熊曾建が、どの勢力に滅ぼされたかを記述し、倭五王王朝が発足したことを示唆している唯一の書籍かもしれません。

3, 根子彦孝元天皇と稚根子彦開化天皇が登場する、欠史七代の内二代が判明したのでしょうか。根子彦孝元天皇・狗奴国の男王（魏志倭人伝）か。稚根子彦開化天皇・熊襲建・厚鹿文あつかや（日本書紀）か。

4, 日本書紀の根子彦系天皇、八代 大日本根子彦太瓊（たいぎょう？）天皇 孝霊天皇、九代 大日本根子彦國牽（くにひき？）天皇 孝元天皇、十代 稚日本根子彦日日天皇 開化天皇。

5, 熊襲とエミシの同族説は、以前聞いた事がありました、が、「東日流六郡誌」の記事によって再確認できました。

6, 地名の類似 シベリア系地名

・ 筑紫（チは人、クシは通る。人の通る処、博多湾岸から筑後平野に通る地峡、二日市地峡）。シベリアの北極海に面したレナ川河口にチクシがある、船（人）の通る所、・津軽半島（ツ-カル）ツ-は二つ、カルは海。二つの海に挟まれている所、陸奥湾と有馬湾(十三湖)の間に位置する所。対馬・二つの島、敦賀・二つの川。ツールカ（バイカル湖東岸）ツールク（フィンランド、ハンガリー、ルーマニア）。バイカル湖 バイ=豊、カル=海 豊かな海。軽島（海島）之明宮、軽皇子=海・あま皇子）球磨川・熊本県、阿武隈川・福島県宮城県、熊川・福島県、千曲川・長野県。クマは動物ではなく、クは曲がりくねる、マは場所、所を言う。曲がりくねって流れる 川の意味です。シベリア地名にクネルマ、ネリマがある、クマ、タマもある。

7, 日本古代史上の大転換期であった、倭五王王朝登場とそれ以前の日本列島の状況が、詳しく見られたことは大変うれしい限りです。

古賀達也氏、玉川宏氏に厚く御礼申し上げます。

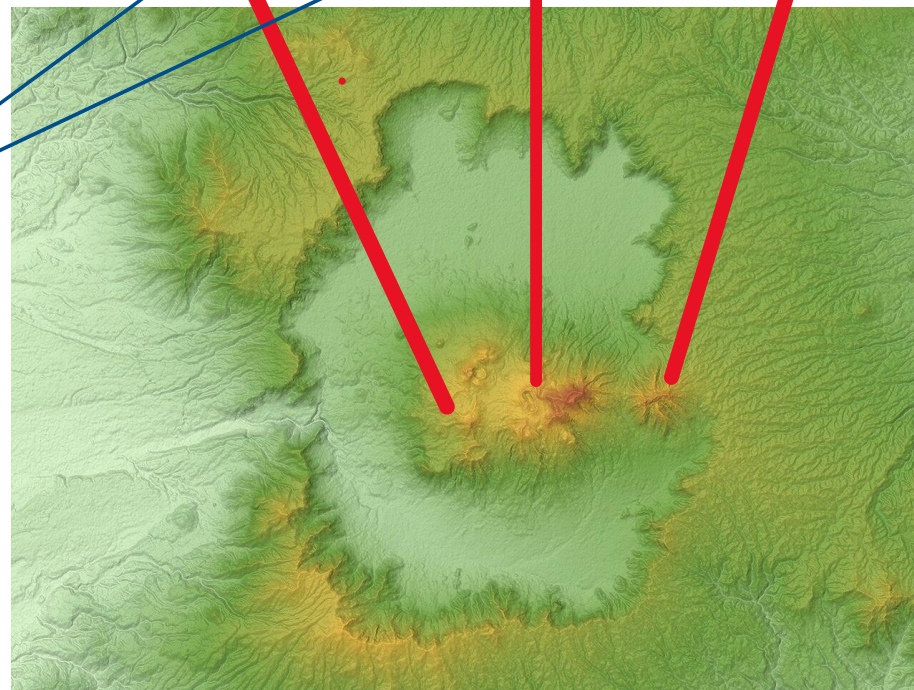
2026, 6, 27記

阿蘇五岳

根子岳、高岳、中岳、烏帽子岳、杵島岳



烏帽子岳 中岳 根子岳



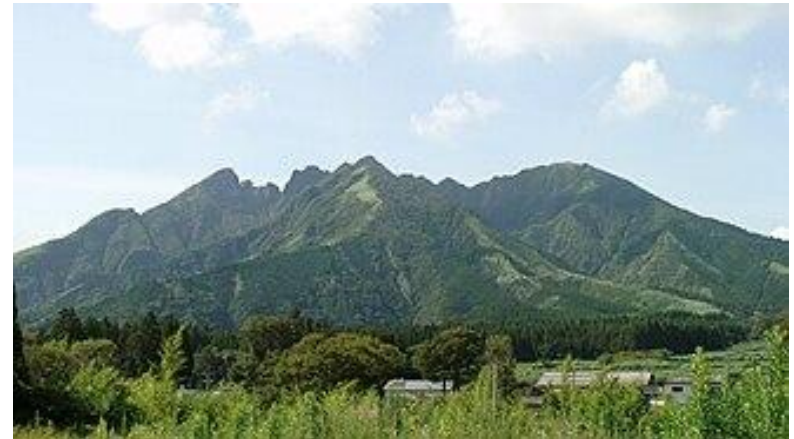
烏帽子岳
1337m



中岳
1506m



根子岳
1443m



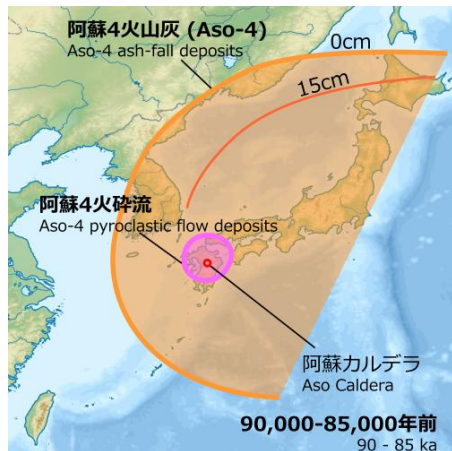
高岳

1542m



杵島岳

1326m



阿蘇五岳・根子岳



天狗岩・根子岳頂上・生命の根源、氏族の根源



根子名の天皇

・ 欠史八代

7代	大日本根子彦太瓊（に）天皇	孝靈天皇	狗奴国初代男王？
8代	大日本根子彦國牽（ひき）天皇	孝元天皇	狗奴国男王？
9代	稚日本根子彦大日日天皇	開化天皇	熊襲猛？

・ 近畿大和朝廷

3 2代	日本根子天津御代豊国成姫天皇	元明天皇	女性	天智の子文武の母
3 3代	日本根子高瑞（ずい）浄足姫天皇	元正天皇	女性	文武天皇の姉